

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 7 日現在

機関番号：32640

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2016

課題番号：15K12824

研究課題名(和文)現代チュニジアにおけるマルーフとシャルキーの共存とその学識

研究課題名(英文)Coexistence and their theories of Maluf and Sharki in Modern Tunisia

研究代表者

松田 嘉子(MATSUDA, Yoshiko)

多摩美術大学・美術学部・教授

研究者番号：80407832

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：チュニジアでの現地調査や研究教育機関との学術的交流を通じて、ジャスミン革命後の変化を含めたチュニジア音楽現代史を纏め、現代チュニジアでアンダルス音楽に源流を持つ伝統音楽マルーフとオリエンタル音楽シャルキーが同等に重要な音楽遺産として扱われ、継承発展されていることを証明した。その成果を共著『中東世界の音楽文化』(スタイルノート、2016年)に収めた。

チュニジア及びオリエンタル諸国で用いられる旋法について、古典楽曲や即興演奏の音源及び書籍資料の分析を行い、主要なマカームとその運用、派生形の特徴を分類整理した。その研究成果展として多摩美術大学において公開講座「マカームとラーガ」を実施した。

研究成果の概要(英文)：Through musical field work in Tunisia and the cooperation with national institutes, I made an investigation into the history of Modern Tunisian music, proving the coexistence of Andalusian music(Maluf) and Oriental music (Sharki). I analyzed sound source and materials of Arabic classical music, then classified modes: their main characteristics and derivative forms. To present these research results, I published the book: 'Music Cultures in the Middle East' with other authors (Style Note, 2016) and gave an open lecture concert: "Maqam & Raga" at Tama Art University.

研究分野：人文学

 キーワード：アラブ音楽 チュニジア音楽 マルーフ シャルキー アンダルス音楽 オリエンタル音楽 マカーム
ワード

1. 研究開始当初の背景

アラブ音楽は、西洋に匹敵する大きな音楽体系を持ち、中でもチュニジア音楽は、地中海沿岸に位置し、太古の昔から多くの民族が興亡を繰り返す、様々な文化・歴史の影響を受けてきた為、東西アラブ音楽の特徴を持つ。西は、北アフリカのいわゆるマグレブ諸国に共通するアラブ・アンダルス音楽の伝統であり、アラブがイベリア半島を支配していた9～12世紀頃に最も発展し、13世紀以降に再び北アフリカに持ち帰られた音楽遺産である。チュニジアでは、アンダルシア起源の伝統音楽を自国の文化遺産とみなし、マルーフと呼んでいる。一方東は、地中海東側のアラブ諸国と、オスマン帝国以来のトルコの音楽伝統を含み、その音楽伝統をシャルキー（東の音楽/オリエンタル音楽）という。19世紀以降では、特にエジプト音楽の発展を機に、エジプトやトルコの影響が強まり、シャルキーが多大な影響を持ってきた。この両学派の共存がチュニジア音楽の特異性である。

2011年1月、チュニジアで勃発した「ジャスミン革命」の波は、多くのアラブ諸国へ民主化運動「アラブの春」として、芸術や文化領域に影響を及ぼし、音楽家への活動の圧迫、権力交代等によりチュニジア古典音楽界は危機的状況に陥った。研究代表者は、挑戦的萌芽研究（研究課題番号 23652042）「チュニジア古典音楽の楽理と現代実践の解析」、挑戦的萌芽研究（研究課題番号 23652042）「チュニジア音楽のトゥブ（旋法）とイスティフバル（即興）の分析調査」を通じて、1934年チュニジアに初めて創設された音楽教育研究機関「ラシディーヤ」伝統音楽研究所と継続的に学術交換を図ってきた。特にジャスミン革命後のラシディーヤ研究所及び楽団の改革や変化に着目し、チュニジア音楽界の現状を考察した。

ジャスミン革命後のラシディーヤ最大の改革は、チュニス以外の都市のマルーフ楽団との連携を強化し、それらをラシディーヤ支部と呼ぶようになったことである。ラシディーヤはもはや単一の機関でなく、ラシディーヤ・ネットワークとして再生し始め、研究代表者の属する日本人楽団もラシディーヤ日本支部としてその一翼を担っている。また、革命後にラシディーヤ楽団長を辞めたズィアド・ガルサは、「マルーフおよびチュニジア音楽カルタージュ協会」という別楽団を作り、新たな演奏活動を展開した。チュニジア音楽は2015年に80周年を迎えたラシディーヤと共に転換期を迎えている。そこで本研究は先行研究にて行った旋法（トゥブ）、即興演奏（イスティフバル）のデータ分析を元に、チュニジアの音楽の基幹をなすマルーフとシャルキーの両学派を中心としたチュニジア古典音楽の楽理の解明と体系化について、革命前・後の新旧両方の観点から行うこととした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本ではほとんど行われてこなかったアラブ音楽の理論的研究、中でもチュニジア古典音楽に着目し、その独自性と特徴を明らかにしていくことである。

研究代表者は、本研究に先立つ研究として「挑戦的萌芽研究（研究課題番号 23652042）「チュニジア古典音楽の楽理と現代実践の解析」及び「挑戦的萌芽研究（研究課題番号 25580028）「チュニジア音楽のトゥブ（旋法）とイスティフバル（即興）の分析」にて、チュニジア古典音楽における楽理と実践面の研究を進めてきた。ジャスミン革命後の政治的社会的混乱の影響が芸術界にも及び中、国を代表する音楽研究機関ラシディーヤ伝統音楽研究所との研究協力を基盤に、チュニジア近代音楽の歴史を記録した。伝統音楽マルーフの継承発展に加え、20世紀以降はとりわけエジプト等オリエンタル音楽が強く影響していることを確認し、マルーフとシャルキーの共存の様子とその学識の整理に着手した。

また、本研究ではアラブ音楽の中でも「アンダルス音楽を源流とする伝統音楽マルーフ」と「地中海東側のアラブ音楽シャルキー」の両学派が共存する特異性を持つチュニジア音楽に着目し、旋法・即興演奏のデータ分析をもとに、ジャスミン革命前・後の観点から両学派を中心としたチュニジア古典音楽の楽理の解明と体系化を目指した。近年アラブ諸国で起きた民主化運動「アラブの春」以降、アラブ音楽は多くの地域でその継承発展に大きな支障が生じている為、本研究によって、アラブ文化遺産の保護や音楽教育メソッドの確立、新たな潮流や諸傾向の解明への一助となる他、通時的・共時的なアラブ古典音楽理論の解明と体系化にもつながると考えた。

3. 研究の方法

(1) 現地調査

アラブおよびチュニジア音楽の代表的演奏家や研究者に聞き取り調査、討議、対談の実施。古典音楽家の教養、美学、演奏技法、鍛錬法、使用楽器の特質等の記録。

代表的演奏家による古典楽曲の演奏及び即興演奏の録音・録画。

アラブおよび関連領域におけるフェスティバル、公演、コンサート等を聴取し、古典音楽のうち現代に受け継がれる楽曲、好まれる演目等の記録。

(2) 博物館資料調査・音楽研究機関との連携

楽器、楽譜、写真、音楽家の伝記的資料の調査および音源・映像資料の収集。

(3) 収集した文献、音源・映像資料の分析

マルーフとシャルキー両方において、旋法理論、リズム理論、楽器の特質と奏法、記譜法、教育法、美学、作曲家の作品等について、比較研究。

4. 研究成果

(1) 現地調査

2015年10～11月にモロッコで現地調査を行った。首都ラバトでロトフィ・シュライビ芸術文化連盟会長と会談し、コミュニケーション省、日本大使館、ムハンマド5世劇場、文化省、国営ラジオ・テレビ放送局等の主要機関を訪ねてモロッコ音楽の歴史と現状について調査した。またカサブランカでウードの巨匠サイド・シュライビに聞き取り調査を実施し、アンダルスで発達した様々な弦楽器や旋法の種類、チュニジアと共通のルーツを持つアンダルス音楽の特質が明らかになった。

2016年3月チュニジア文化省主催の新音楽祭「バルドー博物館の夜」に日本を代表するウード奏者として招聘された際、チュニスとシディブサイドで現地調査を行い、国立バルドー博物館や地中海アラブ音楽センターで資料調査および聞き取り調査を行った。長年学術交流を続けてきた国立コンセルヴァトワール、国立高等音楽院、ラシディーヤ伝統音楽研究所のメンバーとも情報交換を行い、主要音楽家の作曲作品、音楽教育カリキュラム、各種国際音楽祭の演目等を調査し、現代チュニジアでマルーフとシャルキーが同等に重要な音楽遺産として扱われ、継承発展されていることを明らかにした。チュニジア及びオリエント諸国で用いられる旋法について、アラブ古典楽曲や即興演奏の音源及び書籍資料の分析を行い、主要なマカームとその運用、派生形の特徴を分類整理した。

(2) 論文・著書等

チュニジアを代表する音楽研究教育機関であり、創立以来80余年にわたりチュニジア古典音楽の継承発展に貢献してきたラシディーヤ伝統音楽研究所の歴史と、ジャスミン革命後の変化を纏めて論文「チュニジア<ラシディーヤ>伝統音楽研究所～歴史と現在～」を執筆し、共著『中東世界の音楽文化』（スタイルノート、2016年）に収めた。「アラブの春」以後の社会変革において芸術界にも動向変化があったことの貴重な記録となった。この記録は、鷹木恵子著『チュニジア革命と民主化』～人類学的プロセス・ドキュメンテーションの試み（明石書店、2016年）175頁に脱ペン・アリー化現象の事例として引用された。

その他、新井裕子著『イスラムと音楽』の書評（週間図書新聞第3231号、2015年）や地中海学会月報395号の表紙写真と解説（地中海世界の道具：「ウードとリーシャ」2016年）記事において、アラブ古典音楽の歴史や楽器について解説した。

(3) 講演・公演・公開講座等

東京音楽大学付属民族音楽研究所公開講座「ウードとリュート」、ひらめきときめきサイエンス「アラブ音楽の世界～みんなでリズムを体験してみよう！」（整理

No.HT28101）地中海学会連続講座の一環「アラブの古典音楽と宗教音楽」（NHK文化センター）等、いくつもの講演を通じて、アラブ古典音楽、チュニジア古典音楽の特質や重要性、美学的芸術的価値を社会に還元できたことは大きな成果であった（以上いずれも2016年）。



（写真1）

ひらめきときめきサイエンス「アラブ音楽の世界 みんなでリズムを体験してみよう！」、多摩美術大学（東京都・八王子市）、2016年7月23日

研究成果展として多摩美術大学における公開講座「マカームとラーガ」を実施し、世界の主要な旋法体系であるアラブ音楽とインド音楽の比較検討を行なった。実演とディスカッションによりそれぞれの共通点や相違点が明らかとなり、多大な意義があった（2017年）。

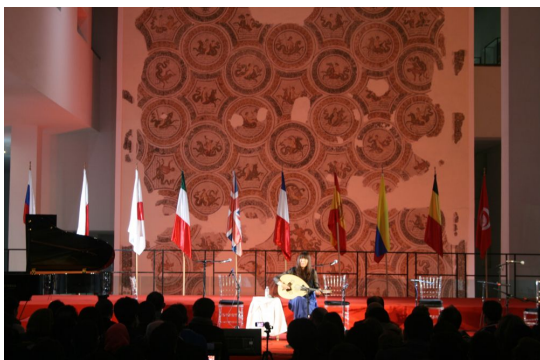


（写真2）

松田嘉子アラブ音楽プロジェクト公開講座「マカームとラーガ」、多摩美術大学（東京都・八王子市）、2017年3月25日

2016年3月チュニジア文化省主催の新音楽祭「バルドー博物館の夜」に招聘され、国立バルドー博物館と地中海アラブ音楽センターでウードのソロコンサートを行った。「バルドー博物館の夜」第1回音楽祭はチュニジアが対テロ不退役の決意を世界に表明する重要なイベントであり、他の参加国はチュニジア、エジプト、アルジェリア、モーリタニア、ロシア、ポーランドであった。各国の出演者、文化省遺産活用推進局（AMVPPC）と情報交換して、チュニ

ジァ音楽の現状や方向性を考察した。オリエントの旋法で作曲した 2 器楽曲「サマイ・フザム」及び「タハミーラ・スイカ」（ともに 2016 年）を地中海アラブ音楽センターにて初演。チュニジアの聴衆に大きなインパクトを与えた。



(写真 3)

チュニジア・バルドー博物館音楽祭「バルドー博物館の夜」バルドー博物館（チュニジア共和国・チュニス）2016 年 3 月 23 日

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

松田嘉子、書評 新井裕子著『イスラムと音楽』週間図書新聞、3231 号 5 頁、査読無、2015 年

松田嘉子、地中海世界の道具 20: 「ウードとリーシャ」地中海学会月報、第 395 号、P8、査読無、2016 年

<http://www.collegium-mediterr.org/report/2016%e5%b9%b412%e6%9c%88%ef%bc%8c395%e5%8f%b7/>

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 1 件)

水野 信男(編著)西尾 哲夫(編著)、飯野 りさ、小田 淳一、斎藤 完、谷 正人、椿原 敦子、酒井 絵美、堀内 正樹、樋口 美治、松田 嘉子、書名『中東世界の音楽文化～うまれかわる伝統』、スタイルノート、総ページ 384(P222～P263)、2016 年

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

アラブ音楽ホームページ

<http://www.arab-music.com>

FM 音楽番組 A・O・R「チュニジアの音楽」
特集 解説・松田嘉子

<http://www.jfn.jp/News/view/aor/29768>

公益財団法人カシオ科学財団協賛事業成果事例・松田嘉子

<http://casiozaidan.org/naiyou/seika/>

東京音楽大学附属民族音楽研究所公開講座「ウードとリュート」

http://www.minken1975.com/kouza_exhibition/20160108.html

チュニジア文化省遺産活用推進局「バルドー博物館の夜」音楽祭・松田嘉子

https://www.youtube.com/watch?v=ZBmuUM_QDgY

ひらめき ときめきサイエンス『アラブ音楽の世界～みんなでリズムを体験してみよう!』(HT28101)

<http://www.jsps.go.jp/hirameki/ht28000/ht28101.pdf>

松田嘉子アラブ音楽プロジェクト公開講座『マカームとラーガ～旋法音楽の世界～』

<http://www.k.tamabi.ac.jp/activity/sr/641363/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松田 嘉子(Matsuda, Yoshiko)

多摩美術大学・美術学部・教授

研究者番号：80407832